

# Club BUSINESS FARMERS

『農業経営者』読者の会 会報

## CONTENTS

第29回定例セミナー報告

高松求氏を囲む会報告

6～7月の定例セミナーご案内

5月の活動・参加申込書

Vol.20 2009年5月1日発行

■発行・編集／株農業技術通信社『農業経営者』読者の会 事務局(担当:長谷川)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-18-25 康洋ビル9F TEL 03-3360-2697 FAX 03-3360-2698

### 第29回定例セミナー報告

## 遺伝子組み換え作物の最前線

～研究開発の可能性、および消費の現状について～

4月10日の定例セミナーでは、日本モンサント(株)代表取締役社長の山根精一郎氏に講演頂いた。世界的にGM作物の消費量が増えているなかで、日本も例外ではない。私たちは食産業に携わる一員として、GM作物について情緒的ではなく科学的に、お客様にきちんと情報を伝える準備が必要ではないかというセミナー趣旨に、小売業や外食業からの読者が多く参加した。

講演ではモンサント社の紹介、世界と日本の穀物需給動向に始まって、GM技術の持つ意味、現在利用されているGM作物のベネフィット、安全性評価の仕組み、消費者の不安の持ちかたへと解説が進んだ。

代表的な消費者の不安としては、昆虫病原菌の種、バチルスチューリンゲンシスの遺伝子を導入して害虫抵抗性を持たせたBトトウモロコシに対して「そも

そも虫が食べて死ぬような食品は大丈夫なのか?」というような不安もあれば、「GM食品を食べると、自分の遺伝子も変わってしまうのでは?」というレベルの不安もある。いずれにしても正しい理解のための情報提供が重要だ。事実、簡単な利点情報を聞くだけで、GM作物に対してのイメージは大幅に変わるという。

話題はその後、日本農業への利点、開発最前線のGM作物などに話題が発展。質疑応答では米国でGM小麦の開発が進まない理由、種子の独占問題などについても言及、忌憚ない議論が進んだ。ご関心ある読者は音声ダウンロードやDVDをご利用頂きたい。



簡単な利点情報を聞くだけで、GM作物に対してのイメージは大幅に変わる

セミナーDVD  
5月29日  
発売

日本モンサント(株)代表取締役社長

山根精一郎氏

高松求氏を囲む会 報告

# 機械化とは、機械を使うために 基盤を整備すること



②



③



①

- ① 竹林で車座になってお話を聞く  
② 機械を通す間隔を確保するために、竹を根元から切る  
③ 「この瞬間が快感！」5月号から読者になった竹田克寛氏

「ピストン機関をどれだけ精緻に作っても限界があります。それをジェットエンジンに変えるのが微生物です」

4月13日、読者の会では急遽『茨城県牛久市の農業経営者・高松求氏を囲む会』を開催した。遠くは福井県から読者が駆けつけ、約15人ほどの集いとなった。冒頭は、この時の高松氏の開会のご挨拶。当日はEMほかしや機械作業の効率化などを通して、同氏の農業経営哲学を学ぶ機会となった。

高松氏は畑作に並行して1968年から竹林経営を始め、60aの竹林を完成させた。その背景には竹林を美しく効率的に整備し、高品質な筍と竹材を産出する手順を確立すれば、日本の竹林とその生活文化を再生する助となるはず、という想いがあった。

「様々な立場の人に農業の本質を伝えなければなりません。農業人として何を考え、どのように伝えていくのか。私は日本に培われた最高技術を集積し、記録を残したい。その記録をもとに農業人が互いに良いものを作り、さらに良くしていくような競争を促していければと思っています」

## 美しい竹林を作るものは何か？ 微生物活用と機械化の哲学

筍を掘るために土に鍬を入れると、畑のようにさっくりと簡単に掘ることができる。そして竹林の竹はまっすぐ等

間隔で、整然と並んでいた。

「自然にはもともと持っている力がある。人間がやることは、土の中の微生物が最大限に力を発揮できるように環境を整えることです」化学肥料に頼りきるのではなく、土の中で微生物が活動しやすくすることの大切さを高松氏は説く。その一つとしてEMほかしの使い方に焦点をあてた。参加者からも、技術的な質問が多く寄せられた。

続いて竹林における機械化について話が及んだ。「機械化とは機械を使うために基盤を整備すること。または機械使用を前提に作業を組むことです。しかし、それを単に機械を導入することだと考えている人が多い」つまり、いかに機械を使いやすい圃場に整備するか、またはそのような作業工程にするかという思考法が求められる。竹林での機械作業の効率化を進めるには、機械を通す間隔を確保するために、竹を根元から切る技術が必須となる。

「今日、一番持って帰って頂きたいのはこの竹を切る技術です」ということで、実際に竹を地面から切る作業を実演して頂いた。等間隔に整備された竹林は、同氏の作業効率に対する哲学から生まれたものだ。「土はあとから持つてくることも可能だが、道はそうもいかない。本来農地は道を作ってから考えるくらいでなければなりません」と高松氏の解説は続いた。

2009年6～7月 **定例セミナー** のご案内

第33回 **6月12日(金)** 16:00～18:00  
会場:㈱農業技術通信社内セミナールーム

## 世界と日本のGAP最新情報

現在、日本のGAP認証数は92。GAPは農場管理の新しい道具であり、同時に農場管理の世界的標準化でもある。IT、会計、ISO、携帯電話、スポーツのルールなど、標準規格を海外に握られて、日本が不利になっている例は多い。農業ではどうなのか?農産物輸入国として、世界のGAP構築への発言力は十分か? 世界と日本のGAP最新情報を解説頂く。

日本GAP協会 専務理事兼事務局長

**武田泰明氏** (たけだ・やすあき)



### PROFILE

1976年北海道生まれ。筑波大学生物資源学類卒業後、㈱ケーアイ・フレッシュアクセスを経て、筑波大学大学院経営政策科学研究科へ進む。その後、三菱商事㈱で食品営業や食品工場の品質管理などを担当した後、退職して日本GAP協会の創立に携わる。08年から現職。

第34回 **6月26日(金)** 16:00～18:00  
会場:㈱農業技術通信社内セミナールーム

## 29歳の農業改革!! 『Agrizm』で実現したいこと

農業の高齢化?担い手不足?僕たち農業青年は、世間から存在を意識されないのか?農業とは、楽しくて、ドキドキして、厳しいこともある分、アツい。だからこそ若い人が大勢取り組んでいること、ビジネスチャンスを狙っていることを知って欲しい……農業の本当の姿を伝え、ネガティブイメージを払拭する29歳の農業改革を、『Agrizm』編集長が語る。

『Agrizm』編集長・全国農業青年クラブ連絡協議会会長

**荻原昌真氏** (おぎはら・まさちか)



### PROFILE

1979年長野県生まれ。大学卒業後、南信州ファーム荻原に入社、現在は農場長。経営面積は水稲40ha、小麦5ha、大豆12ha、ソバ3ha。オリジナルブランド米「やえはら舞」をはじめ、自家製パン・菓子等も販売する。08年から全国農業青年クラブ連絡協議会会長。09年新雑誌『Agrizm』を創刊、編集長。

第35回 **7月3日(金)** 16:00～18:00  
会場:㈱農業技術通信社内セミナールーム

## 精密農業が拓く フードビジネスの可能性

㈱インソップアグリシステムの精密農業では、GPS測量した圃場地図をもとに土壌中の農薬や肥料のバラツキ、作業履歴、品質等のデータを収集し、可変施肥によって資材の過剰投与を抑えている。品質安定化や生産コスト低減、環境保全などの実現とともに、この技術を核として同社が展開するフードチェーンシステム構築事業にも視野を広げる。

㈱インソップアグリシステム 取締役部長

**馬渡智昭氏** (もうたい・ともあき)



### PROFILE

2002年オホーツク地域の異業種交流の積み重ねから、農業者6名と企業6社の出資により㈱インソップアグリシステムを設立(現在は農業者7名と企業9社)。同地域の農業を競争力のあるビジネスとして確立し、精密農業や環境保全型農業を実現すると共に、安心で安全、健康な食を消費者に届けることを目指す。

第36回 **7月24日(金)** 16:00～18:00  
会場:㈱農業技術通信社内セミナールーム

## トマトの価値をもっと高めるために ～野菜の機能性を追求する研究開発～

トマトを中心とした野菜加工食品メーカーであるカゴメ㈱。同社の総合研究所では今、トマトの価値をもっと高めていくための研究開発プロジェクトを進めている。トマトの成分が入った化粧品、トマトのうま味をベースにした調味料など、マーケットのニーズに応じて従来のトマトとは異なる用途や、機能性を追求する研究開発の最前線を解説する。

カゴメ㈱ 常務執行役員

**平岡泰樹氏** (ひらおか・やすき)



### PROFILE

1944年福岡県生まれ。68年九州大学農学部卒業後、同年カゴメ㈱入社。92年商品企画部長、96年取締役を歴任。業務用ビジネス・ユニット・ディレクターなどを経て、01年常務補役に就任。東京支店長、総合研究所初所長を務めた後、現在は常務執行役員プロジェクトを担当する。

第31回 **5月15日(金)** 16:00~18:00  
 会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

(有)ソメノグリーンファーム 代表取締役社長

**染野 実氏** (そめの・みのる)

## 私の加工ジャガイモ挑戦記

### ～茨城県での土地利用型経営の実践～

本誌2008年12月号 新・農業経営者ルポに登場した染野実氏。4年前に始めた加工ジャガイモ作りでは、導入初年度目から5haで開始、初年から4tを越す収量をあげた実績をもつ。そして後作のソバ、ドリルシードで播く緑肥を兼ねた陸稲、小麦を加えると、4～5年輪作を畑作で実現している。茨城県内でも有数の土地利用型経営の実践について、お話頂く。



PROFILE

1960年茨城県生まれ。1980年、茨城県農業大学校卒業後、実家で就農する。現在は水田 30ha、畑 47ha (麦 20ha・陸稲 10ha・ソバ 10ha・ジャガイモ 7ha) を経営する、県内でも有数の土地利用型農業法人。3年前から乾田直播にも取り組み、コメは一部「冬眠米」という商品名で直接販売している。

第32回 **5月29日(金)** 16:00~18:00  
 会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

農業生産法人ふじさん牧場 副牧場長

**藤田太一氏** (ふじた・たいち)

## 農家のビジネスプラン作成術

### ～農場の経営資源をいかして、市場ニーズに応えるために～

A-1グランプリ2009では、「ふじさん牧場」で自然文化体験をエンターテイメントとして提供するプランを発表、奨励賞へ輝いた藤田氏。利用者の総合的満足度を高めていく事業設計や、緻密で説得力のあるマーケティングに、ベテラン農業者や審査委員から高い評価を得た。農場の経営資源をいかして、市場ニーズに応える事業計画の立て方や考え方を解説頂く。



PROFILE

1974年東京都生まれ。早稲田大学卒業後、マッキンゼー・アンド・カンパニーにて大企業及び公的機関に対するコンサルティングに従事。03年企業再生のため、山梨県富士吉田市へ移住。民事再生法を活用し事業再建。06年宿泊施設「やすらぎの別邸 四季亭」を開業。ふじさん牧場との一体経営を行っている。

### ◎セミナー参加申込・DVD購入

■参加を希望する項目に  して、必要事項をご記入下さい。

月刊「農業経営者」  
 定期購読者 **無料**

〈セミナー〉	〈懇親会への参加〉	〈セミナーDVDの購入〉
4/10 (金) 山根精一郎氏 終了	終了	<input type="checkbox"/>
4/24 (金) 大崎善保氏 終了	終了	<input type="checkbox"/>
5/15 (金) 染野 実氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5/29 (金) 藤田太一氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6/12 (金) 武田泰明氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6/26 (金) 荻原昌真氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7/ 3 (金) 馬渡智昭氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7/24 (金) 平岡泰樹氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※セミナー受講料は定期購読者無料、一般参加者5,000円です。  
 ※セミナー終了後(18:00~20:00)には、懇親会を予定しております。(会費1,000円)  
 ※セミナーDVDは1枚2,000円(税込)です。DVDの発売はセミナー実施の翌月末です。

### ◎定期購読申込

■いずれかに して、必要事項をご記入下さい。

- 1年(12冊) **18,000円**  
送料サービス!
- 2年(24冊) **33,000円**  
お得な3,000円割引!
- 3年(36冊) **45,000円**  
お得な9,000円割引!

※本誌セミナー(年22回)参加料込 (一般5,000円/回)  
 ※本誌セミナー全音声ダウンロード (年22回)込 (一般視聴不可)

お名前	会社名 農場名	TEL
E-mail	<input type="checkbox"/> セミナー音声聴講パスワード希望	FAX
ご住所 〒		

**お申込方法** FAX **0120-410-359** まで送信してください。  
 (『農業経営者』HP <http://www.farm-biz.co.jp/> からもお申込できます)

お問合せ/(株)農業技術通信社「農業経営者」読者の会 事務局 TEL 0120-555-184

※セミナーへの無料参加は、定期購読1件につき、1名様までです。2名様以上でお申込される場合、2人目より2,000円をいただきます。予めご了承下さい。